

事業所における自己評価結果(公表)

アンケートの
回収数をこちらに記載

公表:令和 5年 4月 17日

事業所名 児童発達支援・放課後等デイサービスながれぼし

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%	0%	適切であるがわからないがメンバーや人数に応じて活動内容を工夫している。	
	2 職員の配置数は適切である	83%	17%	利用者の特性に応じた職員の配置を心がけている。	
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	83%	17%	事業所はマンション内にある為入口が階段になっているが室内は段差をなくしたバリアフリー化に配慮されている。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	100%	0%		
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	83%	17%	目標設定と振り返りは全ての職員が参画できるように体制を整えている。ハート職員については事前に意見を聞いたり会議録に目を通してもらっている。	この一年は業務改善を活発に行うことができた。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%	意向等を把握し業務改善に繋げていく予定である。	
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	83%	17%	保護者には別紙にて配布	意向等を把握しより良い業務へとつなげていく
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	33%	33%	外部評価は今のところ行っていない。	
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%	月一開催を目指し年間スケジュールを立てている。外部研修の機会も設けている。	
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	100%	0%	アセスメントも行う保護者のニーズや子どもの課題の把握に努めている。各職員がいつでも確認できるようにしている。	
	11 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	83%	0%		アセスメントツールはあるがそれが適切であるか今後も検討していく。
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	100%	0%		
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	100%	0%		
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	83%	17%	活動プログラムは全職員で話し合い、立案している。	
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	子ども達の興味のあることを取り入れている。	
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ合わせて児童発達支援計画を作成している	100%	0%		主に個別活動が中心だが、集団活動も組み合わせ、子どもの状況に応じられるよう今後検討していく。
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%	毎日その日の活動内容や役割分担について確認している。	
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	83%	17%	サービス終了後にその日に行われた支援の振り返りを行い、気付いた点などを共有している。	
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	日々の支援に関して記録をとることを徹底している。支援の検証・改善は適宜行っている。	
	20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%	定期的にモニタリングを行い、個別支援計画の見直しの必要性を判断している。	
	21 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%	児童発達支援管理責任者等その子どもに精通した者が参加できている。	
22 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	83%	0%	担当支援員さんとの情報共有を心がけて定期的な連携はとっている		

No	集計数	はい	いいえ
1	6	6	0
2	6	5	1
3	6	5	1
4	6	6	0
5	6	5	1
6	6	6	0
7	6	5	1
8	6	2	2
9	6	6	0
10	6	6	0
11	6	5	0
12	6	6	0
13	6	6	0
14	6	5	1
15	6	6	0
16	6	6	0
17	6	6	0
18	6	5	1
19	6	6	0
20	6	6	0
21	6	6	0
22	6	5	0

事業所における自己評価結果(公表)

アンケートの
回収数をこちらに記載

公表: 令和 5年 4月 17日

事業所名 児童発達支援・放課後等デイサービスながれぼし

	チェック項目	関係機関や保護者との連携		工夫している点	課題や改善すべき点を挙げた改善内容又は改善目標	No	集計数	保護者への説明責任等	
		はい	いいえ					はい	いいえ
関係機関や保護者との連携	23 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	33%	17%		該当児がいない	23	6	2	1
	24 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	17%	17%		当施設は該当しない	24	6	1	1
	25 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	100%	0%	出来るだけ情報共有と相互理解を図れるよう努める		25	6	6	0
	26 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	50%	17%	同上		26	6	3	1
	27 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	50%	17%		現在はまだ専門機関との連携はできていないが、今後助言や研修を受けていきたい。	27	6	3	1
	28 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	50%	50%		障がいのない子どもと活動する機会はたくさん設けている。	28	6	3	3
	29 (自立支援)協議会子ども部会や地域の子どもの子育て会議等へ積極的に参加している	0%	67%		地域自立支援協議会へ問い合わせたが、コロナ禍で活動があまりできていないとの事で、参加していない。	29	6	0	4
	30 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	日頃から子どもの状況や課題について共通理解を持つよう保護者とのコミュニケーションを図っている。		30	6	6	0
	31 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	67%	17%		ペアレントトレーニングは行っていないが、今後そのような支援の必要性を感じている。職員も勉強し、支援の向上を目指したい。	31	6	4	1
	32 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%	ご契約時に保護者と話し合いの場を設け、丁寧な説明を行っている。		32	6	6	0
保護者への説明責任等	33 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	100%	0%			33	6	6	0
	34 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に応じ、必要な助言等支援を行っている。	場合によっては相談支援事業所や幼稚園・学校とも連携していきたい。	34	6	6	0
	35 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0%	67%	今のところ、保護者会等は行っており、その必要性を感じないという保護者もいらっしゃる。	コロナ禍で出来ないがイベントを開催し保護者同士顔が見える機会は作るよう努めていきたい。保護者同士の連携をどのように行っていくか検討していく。	35	6	0	4
	36 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%	苦情についての対応は整備している。ちょっとしたご要望やご意見等にもすぐ対応し、丁寧な説明を心掛けている。		36	6	6	0
	37 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%	月に一回通信紙を発行し活動内容や行事予定・連絡体制の情報を発信している。また、不定期だがブログやホームページから活動概要がわかるように発信もしている。		37	6	6	0
	38 個人情報の取扱いに十分注意している	100%	0%	個人情報に十分注意し職員研修の場においても周知徹底している。		38	6	6	0
	39 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	子ども達にはイラスト・写真・文字などの視覚化や非言語的コミュニケーション等を活用している。保護者等には連絡帳のやり取りで情報の伝達を図っている。		39	6	6	0
	40 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	50%	17%		地域住民を招待したことはない。	40	6	3	1
	41 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	100%	0%	各マニュアルを策定し職員に周知徹底している。保護者においても契約やモニタリング時に説明し周知出来るように心掛けている。		41	6	6	0
	42 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	定期的に避難訓練を計画し、実行している。		42	6	6	0

事業所における自己評価結果(公表)

アンケートの
回収数をこちらに記載

公表:令和 5年 4月 17日

事業所名 児童発達支援・放課後等デイサービスながれぼし

非常時等の対応	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を挙げた改善内容又は改善目標	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	100%	0%	契約時に確認し状況把握に努めている	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	67%	0%	契約時アセスメントの際に食物アレルギーについてお聞きし配慮している。今は医師の指示が必要なケースはない。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	83%	17%	ヒヤリハット事例集を作成し事業所内で共有している。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%	人権擁護や虐待についての研修会を事業所内で年2回は行っている	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	83%	0%	別室での個別支援については職員間で話し合い具体的な場面を決定している。子供や保護者に契約の段階で説明し了解したうえで個別支援計画に記載している	

No	集計数	はい	いいえ
43	6	6	0
44	6	4	0
45	6	5	1
46	6	6	0
47	6	5	0

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。